
百花繚乱

卯月夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

百花繚乱

【Nコード】

N5045D

【作者名】

卯月夜

【あらすじ】

名は朱斐。一国の王女にして全てである。その存在は悪魔であり神である。世界は混沌とし、少女もまた混沌となりて無慈悲であった。

始（前書き）

某別サイトにて続編連載中です。

始

雪は溶ける。動物は長い夢から覚め、大地はようやく姿を現す。
全てのものの息吹が甦り、日の光は暖かい。

「……………もう春？　まだ冬？　どちらでしょう」

まだ少し肌寒い気候の中、軽装の少女が訊ねる。

欄干らんかんに両手をつけ、前のめりの体制の少女は無表情に近い。

室外に張り出た床に、装飾を施した腰の高さまである柵で囲った
屋根の無い場所。

遙か遠くを見詰める少女。

陰陽和合の模様の衣服、髪を結い上げ、髪の色と同じ簪で綺麗に
纏めている。

「私がここに来てから何年が経ちますか？　あなたは何代目の
護人
です？」

「俺は……………貴方様の護人ではありません。朱斐様」

数歩離れた位置にいる男が答えた。こちらの方がより無表情で美形だった。

男の漆黒の髪と瞳はその闇と同じく生氣は無く、見掛けの違う二人に共通する冷たい氷のような存在感。

肌寒い空気よりも、声すら冷たく

「？ そつ……ならあなたは私の何？」

「……夫です」

「そつ。いつから？」

「今日から……」

「そつ。何故私に夫を？」

「子を成せと……」

「そつ。あなたは生け贄？」

「……」

「無理をしなくて良い。私はそつ呼ばれる者だから」

「朱斐様」

男はその場に平伏した。

まだ十代、その男よりも若い少女に、床スレスレまで頭を下げる。

朱斐と呼ばれる少女はそれを見下ろす。無表情と同じ心で。

「俺で申し訳ございません。ですが……これはもう決った事です。何卒」

フツと自嘲気味に笑う少女。男の肩に触れ、諭す。

「いいですか……あなたは憐れな生け贄。私の御機嫌より己の心配をして下さい」

「……俺は……あなたになら……殺されても良い」

純粹な偽りの無い瞳で少女を見つめる。真摯な言葉。

苦笑しながら少女はその瞳を受け入れる。ただそれは変わるものだ
だと悟るばかり。

「皆……そう言ってくれた。そして次には私を殺そうとする。だから……何も言わないで」

眉をひそめながら少女言つ。

始めは殺されても良い

次には殺そうとする

だから

何も言わないでと

狂

凜零カ国。

王朝千八百年。213代目李王。賢心と誉れ高く、民に慕われ、この王なくしてこの国は無いとまで言われていた。

でもそれは過去の事。

今はそれから遠く離れ、愚王と囁かれている。

李王治世30年。

それ以後、国は荒れた。

揺るぎ無かった治世から今に至る愚行。

切っ掛けは王女 朱斐 だと言われている。

王は生まれたばかりの娘を見て絶叫をあげたと言う。それから不眠拒食となり日に日に衰え、見るに堪えないほど憔悴していった。

王は怯え、決して自分の娘を見ようとしなかった。

王妃はそんな王を支えようとするが、王女を生んだ王妃も疎み罵倒した。

お前のせいだ。お前の生んだあいつのせいでお前がお前なんか

王妃は苦しみの果てに自害した。それから王を止める者はいなくなった。王は心を乱し滅びへの道に突き進む。

李王64歳。

近々王位を譲る。

狂った王はすでに次王を決めていた。

反対を押しきり、庶民から養子をとって後継者と名指した。

王家の血を絶やす為に。

さからえば死罪。

もう誰も愚王に逆らわない。

「…………父上」

声が聞こえた。眼が衰えている李王は誰か分からない。

「誰だ……？」

「あなたの娘にございます。父上」

李王は鈍くなった頭を使い考える。狂った王は考える。

王妃の顔すら思い出せず、自身の子供も

「むす……め……そんな……もの……い……たのか？」

「朱斐にございます」

李王は発狂した。

朱斐は朱い髪を揺らし、後退した。王に触れようと伸ばした手を固めたまま、動揺を顔に出さず。

「はげもの」

朱斐に向かって言葉を吐き捨てると、そのまま李王は死んだ。

朱斐
12歲。

「
父上
」

李王享年64歲。死因心臟麻痺。

今

王の発狂と 化物 と吐かれた言葉。それを聞いていた臣下達は
ようやく気付いた。

王はあの民に慕われ自分達も敬愛していた王はこの 化物 が生
まれたせいで狂ったのだと。

何がどう化物なのか分からない。でも国は荒れていた。人の心も
荒れている。

王女 朱斐 は幽閉された。若干12歳で、王を、父を諫めよう
と苦言をした王女を閉じ込めた。

そして数年が経っても、冷遇は変わらない。

王女 の護衛を建前に監視をする 護人 が朱斐に付いている。

李王にはたくさんの子供がいた。朱斐をいれて63人。

王妃が生んだのは朱斐と後二人。

現王は李王が後継者と決めた王の養子の者が継いでいる。

飾りの王。

本当に凡庸で王を継ぐ者としての資質は無かった。李王はそういう者を選んだ。

この駄目な王に取り入り、国も王宮も腐敗の速度を進めて行く。

朱斐はまだそれに気付かず、知らず、そして陰謀に巻き込まれつつある。

「……………夫……………」

「朱斐様……………」

「私に拒否権は無い。それはあなたにも。だからあなたは 化物の生け贄で哀れ」

まだ冬か

もう春なのか

それすら分からない程、ここは寂しい。時間の流れを感じるものがない。

「私の夫……名は？」

「蒼稀です」

これから始まる序章は世界の終わりがそれとも

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5045d/>

百花繚乱

2010年10月9日05時14分発行